

2024.9.6

ガーナ有料道路計画、来年のT I C A D 9でP P P契約めざす - インデックス、前田建設等がF Sをほぼ完了 -

建設コンサルタント企業のインデックスストラテジー(本社：東京都港区)～前田建設工業～ポルトガル・モタエンギル(Mota-Engil)～現地ストラテジックイニシアティブズ(Strategic Initiatives)は、西アフリカのガーナにおける有料道路のP P P(官民連携)プロジェクトについて、2025年8月に横浜市で開催予定の第9回アフリカ開発会議(T I C A D 9)において、事業契約の締結を目指す。全長44kmの新規高速道路と、全長55kmの既存国道を一括して、30年間のP P Pプロジェクトとして運営する計画だ。近く事業化調査(F S)を完了する予定で、その後にガーナ政府と契約交渉に入る見通し。

新設される高速道路計画は「アペメニム～ダボアセ区間バイパス道路」と呼ばれ、西アフリカのガーナのウェスタン州アペメニム(Apemeyim)～同州ダボアセ区間(Daboase)において、全長44kmのバイパス道路の新設・運営・維持管理をP P P方式で実施するもの。ガーナ政府側の担当機関は、ガーナ道路高速道省とガーナ道路公団。

一方で、同バイパス道路に並行して走る既存の国道1号線についても、全長55km・片側1車線の道路を有料化した上で、P P Pプロジェクトとして実施する。

当初は新規バイパス道路(全長44km)のみを対象としてP P Pプロジェクトとして実施する計画だったが、ガーナ政府が事実上のデフォルト(債務不履行)に陥ったことにより、新設道路の運営に対する政府の財政支援が困難になり、既設の主要国道と組み合わせる形でP P Pプロジェクトが実施されることになった。

P P P契約締結後、インデックスストラテジー～前田建設工業～モタエンギル～ストラテジックイニシアティブズは、特別目的会社(S P C)を設立して事業を運営する。出資比率は日本・ポルトガル・ガーナで各3分の1ずつになる予定。E P C(設計、調達、建設)はモタエンギルが担当する予定。国際協力機構(J I C A)の海外投融資と、アフリカ開発銀行による融資を検討する。

この区間は、ナイジェリアのラゴス～コートジボワールのアビジャン間のギニア湾沿いを東西に結ぶ全長約1,000kmの国際幹線道路「アビジャン～ラゴス回廊」の一部。同回廊は、西アフリカの5カ国を横断し、周辺の内陸国と主要港を結ぶ物流の要になる。

[戻る](#)

※掲載記事の無断転載を禁止します。

著作権は(株)重化学工業通信社に帰属します。